

経営比較分析表（平成28年度決算）

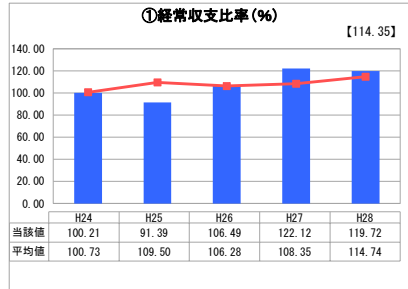
鳥取県 智頭町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	93.72	34.84	3,780	

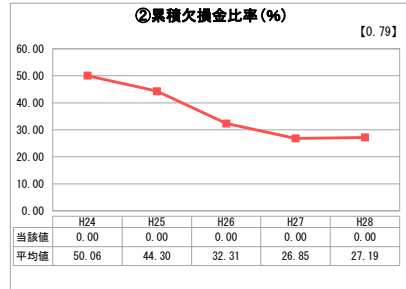
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
7,398	224.70	32.92
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
2,564	2.01	1,275.62

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成28年度全国平均

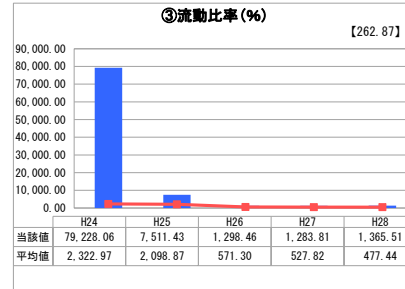
1. 経営の健全性・効率性



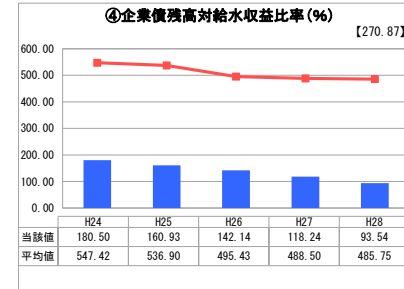
「経常損益」



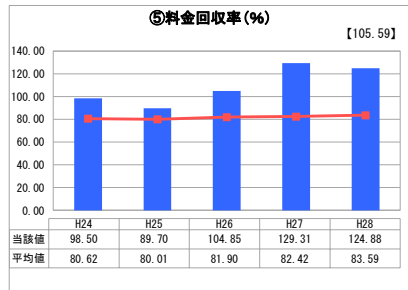
「累積欠損」



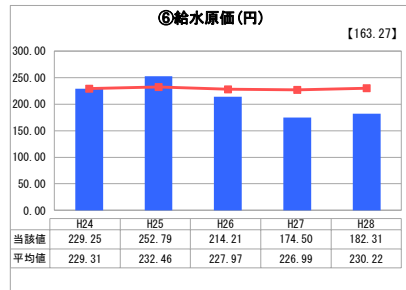
「支払能力」



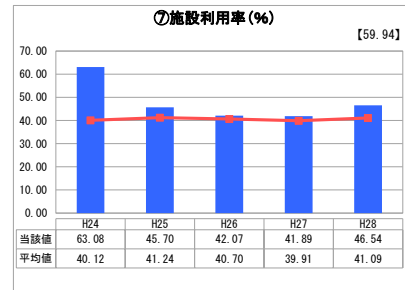
「債務残高」



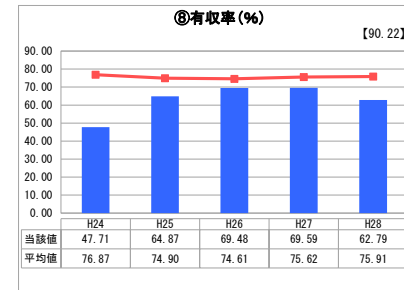
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

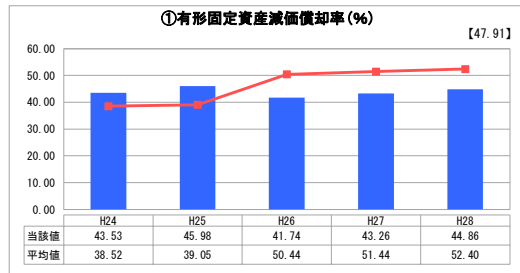


「施設の効率性」

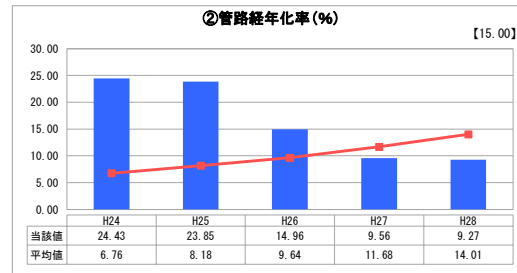


「供給した配水量の効率性」

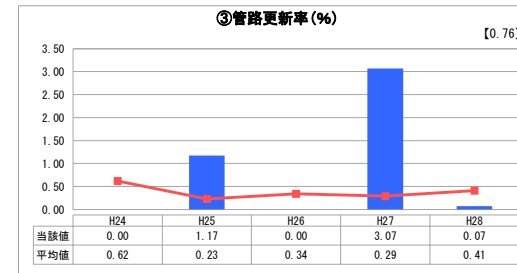
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

予定外の委託料等のため、平成25年度が単年度赤字となったが、累積欠損金もなく例年は黒字であり、収入と支出のバランスは取れていると思われる。

短期的支払能力についても、ここ数年は減少傾向にあるものの、類似団体と比較しても非常に高く十分な支払能力を持っている。

負債については、近年新たな企業債を借りることなく償還のみであるため、企業債残高は毎年減少している。給水収益も減少傾向ではあるが、類似団体と比較しても十分であり、他会計繰入金を受けていない。

給水原価については、平成27年度から算出方法に変更があったことによりその年から減少している。有収率については、近年向上していたが、平成28年度は新たな漏水の増加等もあり低下している。類似団体と比較しても低いいため、早期発見、修理することで漏水を減少させて、さらに向上させていきたい。

2. 老朽化の状況について

平成26年度に大規模な施設の増設を行ったため、管路経年化率が大きく減少したが、それでも類似団体と比べると、高い数値であり老朽管の更新が十分とは言えない状況である。

平成10年度頃から下水道工事に併せて管路更新を行っているが、近年はペースダウンしているため、早急に老朽化、耐震化に対応していきたい。しかし、近年の集中的な投資のため、減価償却費が上昇しており、経営計画等と照らし合わせながら計画的な更新をしていきたい。

全体総括

老朽管更新、耐震化、老朽施設更新には多額の費用がかかるため、自己財源のみではなく、企業債、補助金、繰入金等を十分に考慮した計画を作成し、なおかつ経営に負担をかけないよう、バランスの取れた更新を行っていきたい。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。